
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血反応検査）の実施成績

東京都予防医学協会検診検査部

はじめに

東京都予防医学協会（以下、本会）の大腸がん検診は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクロナール抗体を利用した金コロイド凝集反応により、便中のヘモグロビンの有無を測定するIGオートHem法（免疫比色法）を用いた便潜血反応検査により行っている。

採便回数は、検査委託団体、健康保険組合との契約により、1回法または2回法で行っている。また、一部の事業所では郵送法（10月中旬～3月）を実施している。

本稿では、2010年度の大腸がん検診の実施成績と結果について報告する。

受診者数と年齢分布

受診者の性別・年齢別分布（図1）および検診区分別・年齢別分布（表1、図2）を示した。総受診者数は43,924人であり、男性は28,182人、女性が15,742人であった。男女比は1：0.55と男性が多い傾向を示した。検診区分としては職域検診が77.3%と多く、地域検診は7.8%、人間ドックは14.9%であった。また、職域検診と人間ドックでは男性が多く、地域検診では女性が多い傾向であった。

職域検診における総受診者数は、33,973人（男性22,410人、女性11,563人）であり、前年度よりも480人減少した。年齢別では男女ともに40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。

表1 検診区分別・年齢別分布

		(2010年度)							
検診区分	性別	年 齢 区 分							総計
		～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	
職 域	男	378	3,083	8,023	6,209	4,002	601	114	22,410
	女	227	1,836	4,275	3,312	1,548	324	41	11,563
	計 (%)	605 (1.8)	4,919 (14.5)	12,298 (36.2)	9,521 (28.0)	5,550 (16.3)	925 (2.7)	155 (0.5)	33,973
地 域	男	17	108	342	244	307	155	53	1,226
	女	34	184	667	491	526	235	38	2,175
	計 (%)	51 (1.5)	292 (8.6)	1,009 (29.7)	735 (21.6)	833 (24.5)	390 (11.5)	91 (2.7)	3,401
人 間 ド ック	男	5	962	1,599	1,252	642	68	18	4,546
	女	6	457	772	487	243	36	3	2,004
	計 (%)	11 (0.2)	1,419 (21.7)	2,371 (36.2)	1,739 (26.5)	885 (13.5)	104 (1.6)	21 (0.3)	6,550
総 計		667	6,630	15,678	11,995	7,268	1,419	267	43,924

地域検診における総受診者数は、3,401人(男性1,226人, 女性2,175人)であり、前年度よりも5人増加した。年齢別では男女ともに40～49歳が最も多く、次いで60～69歳が多かった。

人間ドックにおける総受診者数は、6,550人(男性4,546人, 女性2,004人)であり、前年度よりも263人減少した。年齢別では男女ともに40～49歳が多く、次いで50～59歳が多かった。

検診結果

検診区分別の便潜血反応検査における陽性率、1次検診結果、精密検査結果を示した(表2)。

職域検診では、総受診者数33,973人中、便潜血反応検査の陽性者数は1,957人、陽性率は5.8%であった。1次検診結果の要精密検査者数は1,873人、要精検率は5.51%であった。追跡可能数(追跡調査により精密検査結果が把握できたもの)は567件、追跡率は30.3%であった。精密検査診断での大腸がん発見率は総受診者数に対し、0.047%(16人: 男性12人, 女性4人)であった。また、陽性反応適中度は0.85%であった。

地域検診では、総受診者数3,401人中、便潜血反応検査の陽性者数は221人、陽性率は6.5%

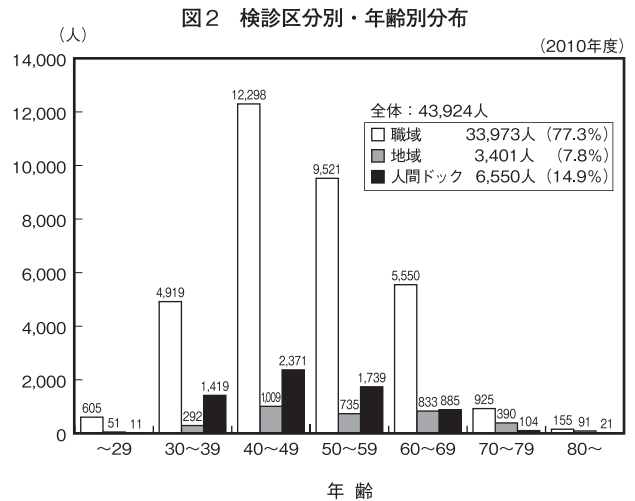
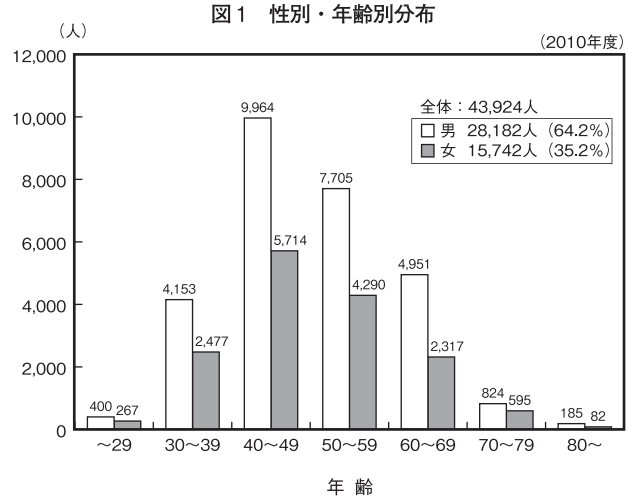


表2 検診結果

検診区分	判定性別	総受診者数	便潜血検査		1次検診結果					精密検査診断結果							陽性反応適中度		
			陽性数	異常なし	要観察	要精検	要治療継続	要再検	判定保留	可能数	大腸ポリープ	大腸憩室症	炎症性疾患	痔核	異常なし	その他		不明	大腸がん
職域	男	22,410	1,358	20,993	28	1,325	22	32	10	421	241	36	14	27	68	20	3	12	
	女	11,563	599	10,925	10	548	3	71	6	146	48	9	3	10	62	10		4	
合計		33,973	1,957	31,918	38	1,873	25	103	16	567	289	45	17	37	130	30	3	16	
域	(%)		(5.8)	(93.95)	(0.11)	(5.51)	(0.07)	(0.30)	(0.05)	(30.3)								(0.047)	(0.85)
地域	男	1,226	103	1,123		103				29	18	3			7			1	
	女	2,175	118	2,054		118			3	46	21	3	3	8	7	3		1	
合計		3,401	221	3,177		221			3	75	39	6	3	8	14	3		2	
域	(%)		(6.5)	(93.41)		(6.50)			(0.09)	(33.9)								(0.059)	(0.90)
人間ドック	男	4,546	302	4,235	8	295	8			74	36	4	3	6	23	2			
	女	2,004	114	1,889	2	95	1	17		28	7	2		4	13	2			
合計		6,550	416	6,124	10	390	9	17		102	43	6	3	10	36	4			
域	(%)		(6.4)	(93.50)	(0.15)	(5.95)	(0.14)	(0.26)		(26.2)									
総計		43,924	2,594	41,219	48	2,484	34	120	19	744	371	57	23	55	180	37	3	18	
			(5.9)	(93.84)	(0.11)	(5.66)	(0.08)	(0.27)	(0.04)	(30.0)								(0.041)	(0.72)

(注) 要観察…腸疾患あり、主治医の支持に従って経過を観察してください。
 要治療継続…腸疾患あり、主治医の指示に従って治療を継続してください。
 要再検…生理による影響など診断を確かめるため、再度検査を受けてください。

であった。1次検診結果の要精密検査者数は221人、要精検率は6.50%であった。追跡可能数は75件、追跡率は33.9%であった。精密検査での大腸がん発見率は総受診者数に対し、0.059%（2人：男性1人、女性1人）であった。また、陽性反応適中度は0.90%であった。

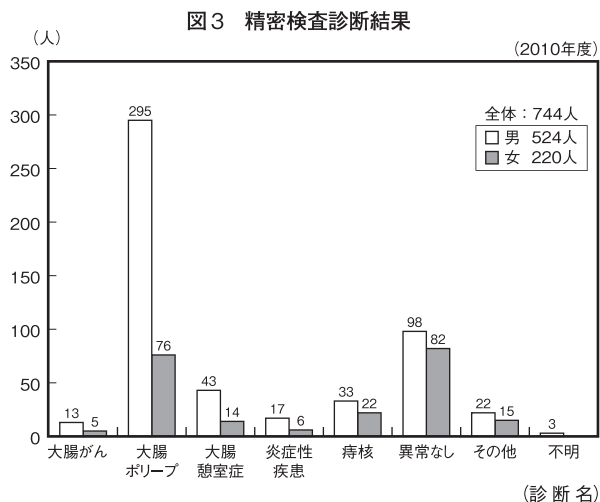
人間ドックでは、総受診者数6,550人中、便潜血反応検査の陽性者数は416人、陽性率は6.4%であった。1次検診結果の要精密検査者数は390人、要精検率は5.95%であった。追跡可能数は102件、追跡率は26.2%であった。大腸がんは発見されなかった。

精検結果の内訳を示した(図3)。大腸がん以外では大腸ポリープが最も多く、次いで大腸憩室症、痔核、炎症性疾患の順であった。また、その他としてはカルチノイド、粘膜下腫瘍、非特異性腸炎、小腸狭窄、毛細血管拡張症、メラノシス、脂肪腫、肛門ポリープ、アニサキス症、アメーバ赤痢感染などが報告されている。

まとめ

大腸がん検診総受診者数は、2009年度と比べ全体で738人、1.7%減少したが、大腸がん発見数は18人、発見率は0.041%で、前年度と大きな変化はみられなかった。

大腸がん検診の精度を向上させるためには、追跡調査を行い、精密検査結果を把握することが重要で



ある。2008年6月より、従来本会で行っていた大腸がん検診の追跡システム(要精検対象者に11施設の提携先医療機関を紹介し、精密検査の受診結果を受け取る方法)に加え、全要精検者に、検診結果と提携先医療機関案内とともに大腸がん追跡調査と返信用封筒を追加した。その結果、精検追跡可能数も増え、追跡率は上昇した。大腸がん発見率も増えたが、依然として追跡率は要精検受診者の3割程度にとどまり、未把握部分が多いのが現状である。

今後も要精検受診者に対し、大腸がん検診精密検査を積極的に受診勧奨し、精検未受診者を少しでも減らすとともに、追跡率の向上のためにより一層努力していきたい。

(文責 森 郁子)